

2022年度 一般社団法人那覇青年会議所		
人財育成交流委員会 水越 睦紀		
現状分析	現在地球上ではコロナ禍の混乱の中におり、これまでの生活の変化を余儀なくされている。我々、那覇青年会議所においても思い切った事業の進行や対内での交流が希薄になり、新入会員においては、那覇青年会議所に入会したがCIとは何か、入会しても事業活動が見えないなど目標をつくるのが困難な状況にある。既存会員においても、新入会員の顔と名前の不一致や活動意欲の低下状態にあると感じている。	
目指すべき状態	<ul style="list-style-type: none"> ■新入会員、既存会員が平時でも気軽に連絡が取りやすい状態 ■だれもが那覇青年会議所において理事長、委員長などの役職に目標をもって自発的にチャレンジすることができる状態 ■変化が求められる社会環境の中、地域や那覇青年会議所内の課題を見つけ、解決できる人財を育成ができる環境を整える状態 	
連携概要	<ul style="list-style-type: none"> ■対内人財交流事業の実施 新入会員、既存会員における交流、お互いの人となりを知る場、信頼関係を構築する場とする。 ■地域を巻き込んだプレゼン事業の実施 沖縄県、那覇市の地域の課題を見つけ、地域を巻き込んだ課題解決力を身に付け、また更なる会員同志の絆の構築を図る。 ■卒業生、会員、OBとの絆を深める事業の実施 卒業生、既存会員、OB、他LOMとの交流を深め、今後のJC活動の糧になるような場を構築する。 	
SDGs	SDGsのゴールとターゲット番号	
	4.7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
	10.2	2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。
	17.17	さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
運動手法	<ul style="list-style-type: none"> ■人財交流事業 新入会員が入会し、第一四半期までには全会員を対象とした交流会の実施。コロナ禍の状況も踏まえうたうで対策をとり、リアル開催での交流会を実施し、常にJC運動やビジネスの場においても気軽に情報交換ができる環境を構築する。 ■プレゼン事業 沖縄県、那覇市の地域の課題を発見し、課題解決の糸口を見いだせる人財育成の場をつくり、また並行して新入会員、既存会員の更なる交流の場をつくりチームビルディングの強化を図る。 ■JC祭事業 一年間培ってきたJC運動、人財交流の集大成。これまでJC運動に注力してきた卒業生へ感謝の意を表すのはもちろん、新入会員、既存、OB、他LOM等の交流を深め、JC祭では皆で一体となり卒業生だけではなく、全会員で協力体制が整える運営を図る。 ■勉強会 沖縄ブロック協議会アカデミー委員会での事業、開校式、JCプログラム (JCI Achieve)、輝くJAYCEE!仕事で使えるビジネスマナー、JCプログラム (CI Impact)、開校式への参加をしJCの魅力と理解を深める。人財で委員会を開き、JCOBの先輩を招いての激励会の実施、JCの歴史やJAYCEEとしての行動を学び、より一層「激」を入れる場を持つ。 	
カウンターパートナー	沖縄県、那覇市、OTV、RBC、QAB、沖縄ラジオ、FM沖縄、沖縄タイムス、琉球新報、日本青年会議所沖縄ブロック協議会、日本青年会議所沖縄地区協議会、永清青年会議所、浦添青年会議所、沖縄青年会議所、宜野湾青年会議所、名護青年会議所、島尻青年会議所、八重山青年会議所、宮古青年会議所、その他 (プレゼン大会等のテーマによって異なる)	

前回までの流れ (意見対応)

■第1回予定者理事会

2020年9月21日 (火曜日) 協議

意見1：那覇青年会議所として、毎年必ず大小発生するのが、入会後の未払いです。この一つの原因として会員同士の交流が限定的かつ特定のメンバーのみの交流になりがちであるというのがこれまで挙げられていました。昨今ではコロナの影響でそもそもコミュニケーション自体が取れず活動もままならないという外的要因も大きいです。どのような事業にも会員の協力・力が必要となります。その土台を構築していくのが水越委員長の委員会となります。是非、JCに入会したからこそ出会えた喜び、楽しみ、実感してもらえよう事業展開を期待しています。

対応1：「誰一人取り残さない」を目標に事業展開、コミュニケーションづくりをしています。

意見2：今年の人財の副委員長として経験してきているので、しっかりと人財について考えられたサマリーで素晴らしいと思います。人財の委員長は、いろいろなことを背負う大変なポジションだと思いますが、ラストイヤー頑張ってください。サマリーの「です・ます」か「である」どちらかに統一しましょう。あと、年間フレームのプレゼン大会の実施と最優秀事業の実施までの間が短いように思います。昨年、今年とバタバタしている感じがするので、最優秀事業の実施前に準備期間1カ月間設けられるような年間フレームがいいかと思います。

対応2：サマリーの語尾「です・ます」に統一しました。
年間フレームをプレゼン大会実施、協議でブラッシュアップする期間、実施前に準備期間1ヵ月をみて余裕をもったスケジュールに修正しました。

意見3：目指す状態が自発的にチャレンジする人財、社会を解決できる人財育成であれば理事長所信にもあるオリエンテーション、勉強会という事も取り入れてみていいかと思います。コロナの障害があるかもしれませんが、その中でもできる方法で会員が成長できる環境づくりの実現を楽しみにしています。

対応3：年間フレームにアカデミー委員会の勉強会及び人財育成委員会でのOBを招いての激励会を組み込み対応しました。

意見4：今日の社会情勢におきまして、会員間の交流は確かに希薄になる傾向にあり、その中でJCの魅力を入会員に伝え自発的にチャレンジしてもらう環境を作るのは本当に難しいことであると思います。しかし、そこを多様な手法で解決するのがJCであり、その手法の中にまさに水越委員長のカラーが出ると思われます。水越委員長の斬新なアイデアで次世代のリーダーをどんどん生み出していきましょう。

対応4：ありがとうございます。これまでの交流方法、新たな手法での交流を混ぜ合わせ、全会員が来年1年間実りある年にしていきます。